軽種馬生産技術総合研修センター マンスリーレポート8

軽種馬生産技術総合研修センター
Center for Equine Breeding Technology

米国ケンタッキー見聞記・パートⅡ

前回に続き，今回は現地当歳馬の肢蹄管理の実情について紹介する。視察期間が短く，ケンタッキーの全貌を知るには不十分な情報であるが，次回の記事と併せて，そこから現地の肢蹄管理状況の一端をくみ取っていただければ幸いである。

当歳馬編

①キーンランドのセリを訪ねて

滞在中，キーンランドのせりの８日目に立ち会うことができた。

“Keeneland 2009 November Breeding Stock Sales”は，Mix Salesであり，繁殖牝馬，子馬，現役競走馬，種牡馬など，用途や年齢を問わず上場される。13日間開催され，Book１にリストされた上質の高額馬から順に売買されていくので，私が視察に訪れた８日目には，上場馬の一部に肢蹄異常馬が散見され，総じて低価格での売買であった。たとえば，写真１の牝馬は，両前肢が湾膝であるのに加え，左前はグレード１のクラブフットを患い，左後には球節以下の明らかな内反が認められた。俗に言う「もやし馬」と言った感じで，さすがに購入者は現れず，主取りに終わった。その一方で，写真２の牡馬は，左前にはグレード２のX脚と凹膝があり，そのうえ球節の沈下が硬く，とても調教に耐えられる状態ではないと思われた，それでも50万円で売却された。

見ることができた10頭の内，８頭が売却され，価格は40～360万円であった。上質の馬は早い日程で上場とは聞いていたが，この10頭を見る限り，とても良い馬とは言い難く，低価格なりの体型や肢曲がりであった。こんな馬もケンタッキーにはいるのかと思う一方，このクラスの馬になると矯正にお金を掛けても元が取れないのであろうか。

写真1-1　両湾膝・もやし馬

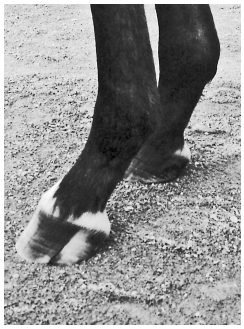

写真1-2
左前クラブフットG1

写真2-1　左凹膝・四肢繋軸峻立

写真2-2　左X脚・
右オフセットニー

②牧場を訪ねて

せりの翌日，生産牧場を訪ね，２頭の当歳馬を見ることができた。見た瞬間，キーンランドで見た馬とは比べ物にならないほど立派な馬格であると感じた(比べるのが間違いかもしれない)。どちらも大柄，骨太で肉付きが良く，ガッチリとしてバランスの整った体形をしており，肢勢も軽い外向で，何ら問題点のない馬で，その１頭を写真３に示した。レキシントンの大手の牧場の立地は，土壌が石灰層で，カルシウムが豊富に含まれており，それに加えて，なだらかな起伏のある地形，放牧地の広さ，運動量(放牧時間10：00～７：00の21時間)の豊富さが，このような馬体を造るのであろう。この牧場は，オーナーブリーダーで，預託馬をほとんど置いていなかった。預託を強く望まれたときは，２～３年この牧場の種馬を付けることを条件に馬を預かるとのことであった。

世界的な馬産地ケンタッキーといえども，肢蹄管理を通して見れば，生産牧場の実態は千差万別なのであろう。

写真3-1　外貌

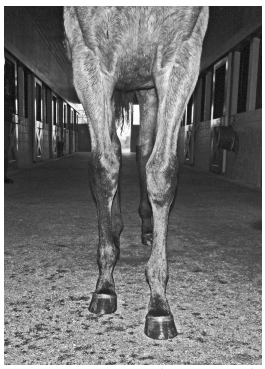

写真3-2　前望(軽い外向)

写真3-3　後望